



愛知万博20周年記念事業

愛・地球博20祭 前夜祭

「地球大交流・未来共想プロジェクト」は、「愛・地球博20祭」の期間を通じて、楽しく交流しながら、愛・地球博の理念を継承し、この20年を振り返り、未来に向けて共に考えるプロジェクトです。愛知万博20周年記念事業実行委員会、野外民族博物館リトルワールド、総合地球環境学研究所など、行政と民間組織と研究機関が共同で組織しています。そのプロジェクトのキックオフが、「愛・地球博20祭 前夜祭」です。

第1部 オープニング「世界の音楽で祝20祭」 出演者



バグパイプ演奏 ジェラルド・ミューヘッド

エジンバラで生まれ育ったスコットランド人で、グレート・ハイランド・バグパイプの演奏家。世界トップクラスの「ロイヤル・スコッツ・ドラゴン・ガーズ」の一員として活躍後、ソリストとなり、世界各地で演奏・講演活動。現在は日本の大学で教鞭をとる傍らバグパイプの演奏や講演等の文化交流活動で活躍中。



馬頭琴演奏 NPO「サランモル(月の馬)」

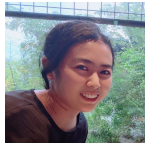
モンゴルの楽器「馬頭琴」の著名な奏者である李波(リポー)氏(内モンゴル自治区出身)の生徒が中心となり結成したNPO。モンゴルの音楽と馬頭琴で国際交流活動を行うグループ。演奏・レクチャー・学校への出前授業などで活躍している。



ペルー民族音楽演奏 ラ・ミスキ(甘い歌)

ペルーの国民的歌手。1992年にファミリア・ロドリゲスのメンバー(12人家族の四女)として初来日。今年芸能活動50周年。2007年からLa Miskiとして、ペルー国内・海外の各地で公演を行うとともに、テレビの民族音楽等の番組の出演とディレクターを続け、ペルーの伝統文化の発信を続けてきた。

第2部 未来共想フォーラムⅠ「愛・地球博とわたし」パネリスト・司会(敬称略)



加藤 麻穂(豊田中央研究所)

小学生のときに愛・地球博を見学して感動し、環境にかかわる研究を志した。大学・大学院時代は人工光合成の研究、現在は研究所員として金属3Dプリンタの研究に携わっている。また、国際交流活動等に積極的に取り組んでいる。



浅野 晴美(AMA AFRICA 代表)

2005年マリ共和国とのフレンドシップ交流よりアフリカ音楽と文化に興味を持ち、その後現地を訪れ交流を継続中。マリ共和国を含め、日本在住のアフリカの方々と共に文化の紹介や音楽演奏を各地の学校で行っている。



伊東 浄江(NPO トルシーダ代表)

愛・地球博のアンデス協働館アテンダントを務めた。2000年より豊田市保見団地を拠点に、ブラジル出身を中心とした外国ルーツの不就学子どもたちの支援活動を続けてきた。



斉藤 祐子(「岡崎まち育てセンター・りた」スタッフ)

愛知万博で「森の自然学校」インタープリター。万博後「もりの学舎」運営に携わった他、公園マネジメント会議会員としてモリコロパークで活動。名工大研究員を経て現職。公園を核としたコミュニティ再生、子育て支援などに従事。3児の母。



総司会: 稲村 哲也(リトルワールド館長、愛知県立大学・放送大学名誉教授)

専攻は文化人類学。中米、南米アンデス、ヒマラヤ・チベット、モンゴルなどで先住民文化や牧畜文化の比較研究を行ってきた。主著に『遊牧、移牧、定牧』(ナカニシヤ出版)、『レジリエンス人類史』(共編著、京都大学学術出版会)など。



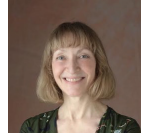
住田 涼(非営利型一般社団法人 Nancy 代表理事)

小学生のとき放課後や休日に愛・地球博へ通い詰めて、全パビリオンを制覇した。現在はNPOを立ち上げ、小学生が仕事や納税・選挙・起業を通して子どもの街をつくるキャリア教育事業「ぎふマーブルタウン」を主催し、19年には経済産業省「キャリア教育アワード」奨励賞も受賞。



スヘー・バートルガ(モンゴル国立大学教授、文化人類学・国際関係、モンゴル人)

愛知県立大学で学位を取得。在学中、愛・地球博のモンゴル館でスタッフを務めた。帰国後、教授職の傍ら、名大と共同して「レジリエンス研究所」を設立し、JICA草の根パートナー事業による「防災啓発」(略称)などに参画。



ヴェロニック・デゾヌ(語学学校経営、ベルギー人)

2005年愛・地球博ベルギー館アテンダント・グループ・リーダーを務めたのち、2006年に再来日。語学教師を経て2015年ブリュッセル・ナゴヤ・ランゲージを立ち上げ、語学教育を通して日本とベルギーの架け橋として活躍している。



三矢 勝司(名古屋学院大学准教授、愛・地球博記念公園・公園マネジメント会議コーディネーター)

「岡崎まち育てセンター・りた」理事としてNPO活動を重ねるとともに、2009年より公園マネジメント会員諸団体の実践をサポートしてきた。学位論文は『公共空間の協働型マネジメントにおいて中間支援組織に求められる役割と支援技術』。2023年より現職。



総司会: 横田 純子(長久手市国際交流協会)

国連館スタッフリーダーを務めた。ベルギーなど海外に在住し、帰国後、国際交流協会の運営委員長、理事を経て、2023年より長久手市国際交流協会事務局スタッフとして、地域の国際交流に尽力している。

第3部 特別企画「小さな国からの声」出演者



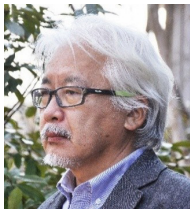
エゴ・レモス

東ティモール人アーティスト、環境・未来創生活動、東ティモール大統領特使、文化・環境・水資源親善大使「アジアのノーベル賞」といわれるマグサイサイ賞を2023年に受賞



小向 さだむ(パーカッション)

映画「カンタ!ティモール」撮影・音楽。高校のグループ音楽活動で複数受賞し、ニューヨーク遊学を経てソロ活動。東ティモール独立祝賀コンサート、愛知万博、COP10、東ティモール日本国交記念コンサート等出演。



阿部 健一

総合地球環境学研究所・名誉教授、上廣環境日本学センター客員教授、人間環境学。生態学を修めたが、その後人と自然の関係性の研究に転じる。東南アジア、中国、アマゾンなどで臨地調査。近年は、もっぱら東ティモールと日本国内で活動。



広田 奈津子

国内外の古い文化を訪ね歩き東ティモールでは独立式典に参加。大統領らを取材し映画「カンタ!ティモール」を監督。NGO環音代表として愛知万博、生物多様性アドバイザーとしてドイツCOP9・COP10、先住民族サミット参加。